

『今日、その名で祈れる幸い』ヨハネ16:23-28

16:23 その日には、あなたがたがわたしに問うことは、何もないであろう。よくよくあなたがたに言うておく。あなたがたが父に求めるものはなんでも、わたしの名によって下さるであろう。

16:24 今までは、あなたがたはわたしの名によって求めたことはなかった。求めなさい、そうすれば、与えられるであろう。そして、あなたがたの喜びが満ちあふれるであろう。

16:25 わたしはこれらのことを比喻で話したが、もはや比喻では話さないで、あからさまに、父のことをあなたがたに話してきかせる時が来るであろう。

16:26 その日には、あなたがたは、わたしの名によって求めるであろう。わたしは、あなたがたのために父に願ってあげようとは言えない。

16:27 父ご自身があなたがたを愛しておいでになるからである。それは、あなたがたがわたしを愛したため、また、わたしが神のみもとからきたことを信じたためである。

16:28 わたしは父から出てこの世にきたが、またこの世を去って、父のみもとに行くのである」。

●序論

クリスチャンであるならばだれでも、その信仰生活で「神に祈る」。

そしてどんな祈りも、「イエス・キリストのお名前によって祈ります。アーメン」という言葉で結びます。

16:24 今までは、あなたがたはわたしの名によって求めたことはなかった。求めなさい、そうすれば、与えられるであろう。そして、あなたがたの喜びが満ちあふれるであろう。

イエスさまは、「わたしの名によって求めなさい」と言われました。それはそれまで当たり前ではなかったのです。そしてもちろん、おまじないでもありません。

その名を口にして祈るとき、その名で祈れる祝福を知っていて、信仰を働かせて祈ることができれば感謝です。

●本論

I. イエスの名で祈れること

16:23 その日には、あなたがたがわたしに問うことは、何もないであろう。よくよくあなたがたに言うておく。あなたがたが父に求めるものはなんでも、わたしの名によって下さるであろう。

同じじ日の同じ食卓で語られたイエスさまの言葉にこうあります。

14:14 何事でもわたしの名によって願うならば、わたしはそれをかなえてあげよう。

「イエスさまがくださる」ところが、「神さまがくださる」という表現に変わっているということです。

大した違いはないと思われるかもしれませんが、けれどもその境を示す言葉がありま

す。

それが、「その日には」という言葉です。

「その日」を境に、わたしたちは”今”、”こんにち”、イエスさまの名前で祈ること、そう祈る時、神さまが応えてくださることを経験するのです。

それはイエスの復活以降、聖霊が与えられた新しい時代のことを指しています。

それまで弟子たちは、何かあればイエスさまに直接尋ね、教えを受けていました。

しかし、十字架と復活を経た後、弟子たちは聖霊によってイエスの名によって、直接、天の父なる神に祈るようになったのです。

ある先生は、クリスチャンを「天国人」。そして天国人には特別なパスポートが与えられている。それが「イエスさまのお名前」だと言われました。

その先生はこう語られています。

”日本のパスポートは、いま世界中どこへ行っても通用しますが、それ以上に天国のパスポートだけが、天国では通用します。それがキリストのお名前を使うことがゆるされているということです。”

だから天国人として、この世に遣わされた私たちにとって、この名を使うことができることは大切です。

それはイエスのご人格と御心にかなう特別な祝福をもって、神に近づく祈りとなるからです。

Ⅱ. 父なる神に祈れること

16:26 その日には、あなたがたは、わたしの名によって求めるであろう。わたしは、あなたがたのために父に願ってあげようとは言いません。

16:27 父ご自身があなたがたを愛しておいでになるからである。それは、あなたがたがわたしを愛したため、また、わたしが神のみもとからきたことを信じたためである。

弟子たちが父なる神に祈るとき、イエスさまがいちいち取り次ぐのではない、父が応えてくださるというのです。

その理由は、父なる神さまがわたしたちを愛してくださり、子としてくださっているからなのです。

ここでのポイントは、「父なる神と弟子たちの関係が変わった」ということです。

そして、これはとても大きな恵みです。

かつて旧約時代、神に近づくには、祭司を通してしかできなかったからです。

聖なる神の前に直接出ることは、誰にも許されていなかったのです。

しかし、イエス・キリストを通して事情も関係も全く変わりました。

その十字架で罪を贖い、私たちのために命を捧げてくださったことで、神さまとの隔てが取り払われたからです。聖書はこうわたしたちに告げます。

だから、わたしたちは、あわれみを受け、また、恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかりことなく恵みの御座に近づこうではないか。
(ヘブル4:16)

今や、私たちはキリストを信じる信仰によって、その恵みによって「神の子」とされました。だから父なる神に「アバ、父よ」と呼びかけ、親しく祈ることが許されているのです。

だから、イエスさまがいちいち「取り次いであげる」という形式ではなく、私たち自身がイエスの名によって父に直接願う関係とされているのです。、

Ⅲ. 祈る者が変えられること

祈りは、私たちの状況を変えるだけではなく、祈る者自身を変えます。
(週報のショートメッセージをご覧ください。)

先ほど、「父なる神と弟子たちの関係が変わった」とお話しました。

子とされていることで、わたしたちは、神の子として成長する、成熟への道を歩み始めたのです。

だから申し上げることができます。

イエスの名によって祈るとき、私たちは主イエスの御心にかなう願いを求めるようになっていきます。その祈りの中で、神さまが、私たちに触れてくださり、わたしたちの思いを整え、神の愛の中にふさわしい者としてくださるからです。

イエスは27節で「父ご自身があなたがたを愛しておいでになる」と言われました。そう神さまの愛を受け取ると、その中で人は成長するのです。

祈りの中で、この神の愛を確かに受け取るとき、わたしたちは神さまの安心の中に入ります。

私たちは神さまの力を受け、困難の中にも神さまからの希望を持ちます。

さらには、神さまの思いを受けて、他の人たちのために祈り、神さま由来の愛をもって歩む者へと変えられていくのです。

その祈りのカギとなるのが、「イエスさまのお名前によって」祈ることなのです。

●さいごに

弟子たちがこれまで経験してきた14章の世界、「祈れば、イエスさまがかなえてくださる」というところから、かわって16章、「イエスさまの名前で祈るならば、父がかなえてくださる」と言われていることを聞きました。

だから、こう言われています。

16:26 その日には、あなたがたは、わたしの名によって求めるであろう。わたしは、あなたがたのために父に願ってあげようとは言いません。

今、わたしたちは、イエスさまの名によって直接神さまに祈ることができる者とされています。

以前と関係が違います。「成熟した神さまのとの関係」へと入れていただいているのです。だから祈ることは幸いです。

そしてイエスさまはこう結ばれました。

わたしは父から出てこの世にきたが、またこの世を去って、父のみもとに行くのである」。

この13章以降で何度も聞くこの言葉です。わたしたちのもとに、イエスさまがわたしたちの助け主として、聖霊を遣わしてくださることを示します。

そして、この祈りの世界で、何度も「その日」と言われているのは今のことです。

それは、この聖霊が降臨されたペンテコステの日から、イエスさまが再臨されるまでの間を生きるクリスチャンが「イエスさまのお名前で祈ることができる」という祝福なのです。

だから、神さまのとの関係の成熟を楽しみに、いつでもイエスさまのお名前によって祈りましょう。

「父なる神ご自身がわたしたちを愛してくださっている…」(：27)という真実な経験を与えてくださいます。

そして、わたしたちは、経験できるのです。

16:23 その日には、あなたがたがわたしに問うことは、何もないであろう。よくよくあなたがたに言う。あなたがたが父に求めるものはなんでも、わたしの名によって下さるであろう。